

01 上位計画における位置づけ

01 上位計画における位置づけ

1. J R 古賀駅東口周辺地区まちづくり基本計画

■まちづくりコンセプト

J R 古賀駅東口周辺のまちづくりは、現状のまちの特性を活かしながら改善を図ることはもちろんのこと、『～これからの100年、市民が誇れるまちへ～』の実現に向けて、「賑わい」、「子育て世代の居住」、「回遊性」、「魅力の発信」、「印象的な空間」の整備や施策など、未来に向けた新しいまちを創造していく役割を担うことが求められます。これらを踏まえて、まちづくりのコンセプトを示し、実現に向けて取組を進めます。

まちづくりコンセプト

歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良いまちづくり

■まちづくりの整備指針

指針1 賑わいを創出する多様な機能集積

住宅・商業・観光・医療・教育・文化・交流・就労など多様な機能が集積し、多様性と賑わいの創出、魅力の発信に取り組みます。

指針2 公共交通機関との連携と回遊性の高い歩行者ネットワークの創出

将来の都市機能に合わせた交通網の見直しと歩いて回遊できる居心地の良い空間を創出します。

指針3 既存工場などの立地特性を活かした街並みの形成

隣接しているものづくり工場や公共施設との調和を図り、緑化などの景観に配慮しつつ、特徴的な街並みの形成を目指します。また、古賀市の玄関口に相応しい駅前の魅力向上に取り組みます。

指針4 脱炭素社会の実現に向けたまちづくり

二酸化炭素排出量を実質ゼロにする脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーや高効率な環境技術の導入を積極的に行います。

指針5 安全・安心に暮らせる都市基盤の構築

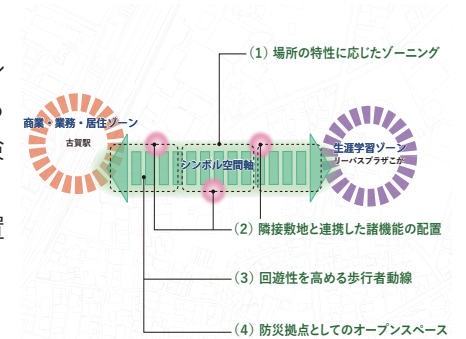
近年の災害に対応した防災機能の強化と女性や子どもが安心して暮らせる質の高い都市基盤を構築していきます。また、本格的なデジタル社会に向けた、新しい技術やサービスとの連携に取り組みます。

2. J R 古賀駅東口周辺地区整備基本計画

■基盤整備の方針

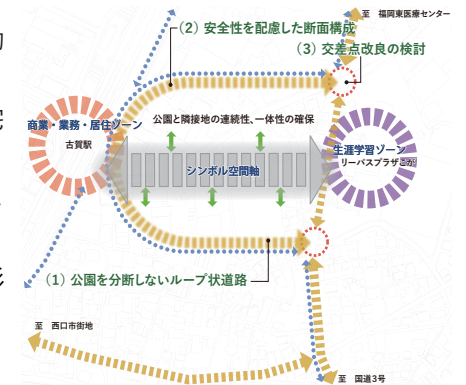
公園によるウォーカブルな都市軸の形成

- ・「古賀駅」から「生涯学習ゾーン」までをシンボル空間軸とし、公園によってつなげます。配置にあたっては、既存クスノキの保全とその活用策を検討します。
- ・都市軸となる公園における賑わいや居場所を配置したウォーカブルな空間を創出します。
- ・安全・安心に配慮した公園とします。



公園による都市軸を生かす交通ネットワークの形成

- ・道路等による公園の分断をできるだけ減らし、自動車動線と交錯しないよう公園の連続性を保ちます。
- ・公園と宅地の間に自動車交通網を設けず、公園と宅地の一体的な空間形成につなげます。
- ・各方面からのアクセスに配慮したネットワークとします。
- ・段階的な整備プロセスにおいても円滑な交通網を形成します。
- ・通勤通学時の歩行者交通の集中に対応するために、古賀郵便局前交差点の改良を検討します。



交通結節機能を高める駅前広場や自由通路の形成

- ・駅前広場の混雑を避けるためバスやタクシー、一般車等の乗換えなどの利便性の向上を図ります。
- ・エレベーターやエスカレーター等のバリアフリーで使いやすい交通結節点を形成します。
- ・西口と東口の連続性を高め、古賀の玄関口として誇れる駅前景観の形成に資する駅前広場や自由通路等とします。
- ・駐輪場やトイレ等の適切な配置による交通結節機能の強化を図ります。

